

# 2年ぶり2度目のV

## 最終9番イーグルで決める

《第13回九州女子ミッドアマチュア選手権》

1イーグル、2バーディー、6ボギーの74

川口（旧姓中村）いくみ（大博多、28歳）



2年ぶり2度目の優勝を決める一打は、細いピンを目指してまっすぐ伸びた。インからスタートした川口にとって最終ホールとなる9番ロング（426ヤード）。通常はミドルとして使用されるため距離は短い。ピンまで残り178ヤードの第2打を川口は5Iでフルショット。「入りそうだった」という一打はグリーンを転がり、ピンをかすめるように上1・5mに止まった。このイーグルパットを難なく沈める。終わってみれば2位とは2打差。このリードが笑顔をもたらした。

「3パットを連発していたし、(全国大会に) 通ればいいかな、くらいな感じでした。

グリーンが仕上がっていて1週間前の練ランより速かった。ピンポジもきわどかったし」と久山の高麗グリーンに手こずった。ショットは快調でほとんどパーオンしながらも、6個のボギーのうちカラーからを含めると3パットが5つ。それは川口に限らず、他の選手たちも悩まされた。

福岡市生まれで10歳からゴルフを始める。沖学園高からスポーツ推薦で関西学院大に進学し、4年時には関西学生ゴルフ連盟の委員長と日本学生ゴルフ連盟の副委員長を務めた。卒業後は大阪市内の大手の不動産会社に勤め、4年前には宅建士の資格を取得。現在は別の不動産会社になり、営業に携わる。仕事が忙しく、ゴルフの練習は週1回、ラウンドとなると月1回である。学生時代に知り合ったご主人と回ることが多いという。練習量はかなり少なくても結果は出す。その秘訣は？「学生の頃はプレッシャーがあったけど、今は楽しくやっている。練習も基本をベースにしてリズムとかを大事にしながら、変に考えすぎずにミスしても『ま、いいか』くらいに」。ガツガツさが消え、気持ちを穏やかにしてのゴルフが川口には向いているのだろう。

2年前は入籍直後だったが、旧姓の「中村」で初優勝し、スコアは「75」。その前の年が「76」で2位タイ。今年は「74」で2勝目。「スコアが上がってますね」と微笑む川口だが、全国大会でも同じ傾向にある。初出場の2022年が13オーバーで16位タイ、2023年が9オーバーで14位タイ。「(全国大会は)皆さん、意気込みが違うし、活気がある。今年は車で行けますね。福井は初めてだし、楽しみです。是非シードを取りたい」。3度目出場の日本女子ミッドアマには「川口」でエントリーし、シード権の10位以内を目標にする。